

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

毎日、国県市町村の来年度予算に関する情報が伝わってくる。生活に大きな影響を及ぼす制度改正の論議に無関心な人が多いことも事実だ。これまで生前

贈与の常識だった「死亡以前3年間に贈与された財産は相続税の対象」が2024年1月1日以降の贈与に、2023年度税制改正で生前贈与の対象期間が「3年間」から「7年間」に変更された。子どもや孫に年間10万円までは基礎控除として税金がかからないと、地価等高騰対策に生前贈与を考えた人には辛い制度改正だった。シニア世代を狙った、隠れ増税知識は、誰もが学ぶべき重要なだろう。

埼玉県八潮市の道路陥没事故は過去に類を見ない大規模なものになった。私たち地域の道路敷きにも上下水道管や多くのインフラの管が埋設されている。耐用年数を経過した施設も多いことも事実だ。設備更新を目的に会計計上する減価償却費は再整備に要する資金として計画的に積立

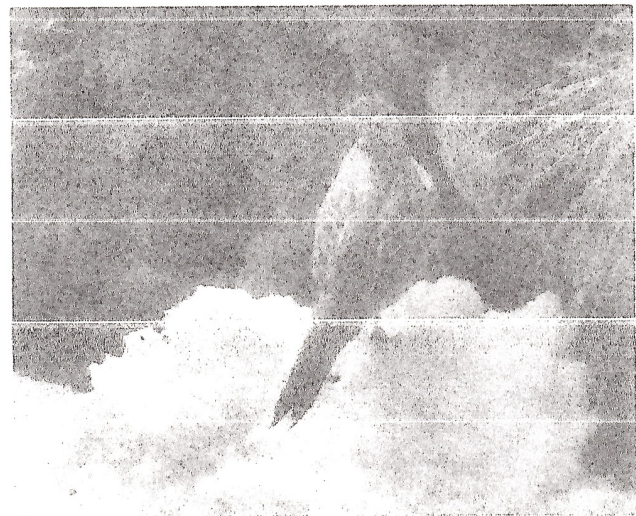
社会の動勢を学ぶ事が大切だ

が、毎年施設の新設・改良の事業予算を確保するために減価償却費を現年度損益勘定留保資金として充当しており現金化可能な積立金が無い事が多く、白馬村でも老朽化した水道施設や耐震化を行う財源確保のため1月請求

分から水道料金が改定された。事業運営の基本的な考え方を要するべきだ。少子高齢化で次世代に大きな負担を引き継いではいけない。全てを事業収入のみで対応できない時期に来ることを理解するべきだろう。

明日2月22日は、「ニャン・ニャン」と読んで猫の日。「さんねんないきもの辞典」を監修した動物学者の今泉忠明先生は著書「猫脳がわかる」で、人も猫も同じ哺乳類なので脳の基本的な構造は同じで、例えていえば喜怒哀楽のうち「哀」の代わりに「愛」があると記述している。夏目漱石の「吾輩は猫である」に登場する野良猫は、福猫として飼いはじめたら漱石は一躍、人気作家となったと言われている。

伝えられていた。映画の寅さんの吹向売(たなかばい)の口上で有名な「結構毛だらけ猫灰だらけ」。猫ブームで東京五輪がもたらす経済効果を上回る風潮をアベノミクスになぞらえた「ネコノミクス」が新造語になった経済状況。和歌山電鐵志志駅の名物三毛猫「たま駅長」など猫は人間と深く関わっている。明日は、猫との生活を考える楽しい一日にしたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



豪雪が影響するのか初めて自宅窓越しにキジの生態を垣間見る